



バーチャルトリップ

日時 : H13年2月7日(水)
13:00~13:45
場所 : コンピュータ室
授業者 : 古池 浩

(1)タイトル バーチャルトリップ

(2)サブタイトル 旅行に行こうよ

(3)校種 教科 学年 病弱養護学校 生活単元学習 高等部2・3年

(4)コンピュータ活用のアイデア

<アイデア>

インターネットを利用して目的地について調べる活動をとおして、より目的意識を持たせることができる。
プレゼンテーションで発表することで自信を付けさせることができる。

<メリット>

Webページに対する興味を高めつつ、授業に対して持続的に積極的に参加できる。
メモやファイルに保存することで、資料の取舍選択や整理、やり直しも容易にでき、発表に対しても余裕を持って積極的に臨むことができる。

(5)単元・項目

旅行の計画を立てよう

(6)対応する学習指導要領の内容

我が国のいろいろな地域の自然や生活の様子を理解し、社会の変化に関心をもつ。
地図や各種の資料などを活用し、我が国のいろいろな地域の様子や社会の変化を知る。

(7)指導目標

知的障害を併せ持つ対象生徒は、まわりの集団に流されがちである。少しでも目的意識をもたせるために、インターネットを利用して調べ、必要な資料を取捨選択し、メモやファイルに残しておくことができる力が
必要である。また、プレゼンテーションを使用して発表する活動をとおして自信付けさせる必要がある。

(8)コンピュータ活用のねらい

インターネットが急速に進歩し、生徒達にとっても身近な存在となった。特にテレビにもURLが表示され



るようになり、各番組についての情報がいつでも引き出せるようになってきた。一方でコンピュータはこうした情報を保存整理するには非常に便利な機会である。こうした興味関心のある情報から、取捨選択の方法や整理について学習を進めたいと考えた。

(9)実践のポイント

学校から飛び出す

教室の窓からは、有名な金華山を見ることができる。しかし、生徒らにとってそこすら未知の場所であった。また、3年生は秋には修学旅行で北海道へ行く予定であった。生徒らにとって場所の移動は比較的容易であるが、自らが目的を持っていくことは難しいことである。「金華山に登る」「岐阜市内の公共施設を見学する」という目標をもたせ、その計画を立てることにした。知的障害を併せ有する生徒らにとって、地図で位置関係を捉え、バスに乗る方法、時間を予測することは大変苦手なことである。



そこで、実際に歩いたりする経験を繰り返し、それを補うためにインターネットでの地図などの検索を繰り返しておこなった。

次はどこへ行こうか

学習の最後の段階として、「旅行に行きたいところはどこか」という質問をした。予想通り関東方面が目的地としてあがってきた。どうしてそこに行きたいのかという理由を考えさせたところ、その多くが「テレビで見たことがある」といった簡単な理由であった。そこへ行って何かをみたい、したい、買いたいといった理由は出てくることがなかった。

そこで、目的地についてインターネットで調べてみることにした。いろいろな情報が検索の結果もたらされた。情報を取捨選択することをとおして、目的地には何があるかとか、これは一度見たいとか、これをぜひ買いたいという目的をもつことができるようになってきた。

他の教科との連携を

社会においてローマ字が併記(特に地名など)されていることが多いために、パソコンを使っでの学習を機会に、特に国語との連携を図りローマ字入力を徹底させた。その成果によりローマ字の読み書き・入力が可能となり、「入力」というかなり大きなハードルを越えることができ、自信をもってパソコンに取り組める姿勢が育ってきた。

(10)子どもたちの反応

発表への積極的な参加

目的についての調査結果を、非常に簡単ではあるがプレゼンテーションで発表した。その中では、目的



地への地図や交通機関,自分が見たいものや購入したいものなどを素直に表現することができた。プレゼンテーションソフトの基本的な部分のみの活用であったが,作成過程や発表の練習過程をとおして,指導者とのコミュニケーションも十分にとることができた。そして自分が言いたいことが整理でき明確となることで,これまで人前で発言することに非常に抵抗を示していたが,とても大きな声で自信をもって発表することができた。

これまでは見ていただけ

生徒は昼休みなどにインターネットを利用していましたが,「ひらがなナビ」を使うことで逆にホームページの内容についての質問が出るようになった。これまでは利用はしていたが,ただ写真や絵を見て楽しむことで終わっていたのが,漢字にふりがなが付くことで,その意味や内容について質問ができるようになり,より理解が進むようになった。また,読み方がわかればパソコンでの文字入力でその漢字を使うことも可能となり,作文などでも新しい漢字が使われるようになってきた。



インターネットが身近なものに

こうした授業の基盤となったのが,マルチメディア機器の整備である。コンピュータ本体が更新されたこともさることながら,インターネットへの接続がこれまでのISDN回線からケーブルインターネットへ変更されたことが大きい。これにより,高速回線で瞬時に画像が多く含まれたWebページでも表示されるようになった。常時接続で料金も気にする必要がなくなった。こうした環境の変化により,授業者にとって一時間の授業が計画的に行うことができるようになり,生徒にとっても待ち時間によって集中力が欠如することもなく楽しく効率よく授業に取り組むことができるようになった。